

令和6年度 江戸川区立船堀小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○よく考え すずんで学ぶ子 ○さいごまでやりぬく子 ○思いやりのある 心豊かな子 ○たくましく じょうぶな子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○子供が学びを通し、互いにかかわり合いながら思いを伝え合う学校 ○子供や保護者、地域の思いに寄り添った導きのできる学校 ○教職員が目標を共有し、互いの思いを伝え合い、新たな教育の創造ができる学校 ○美しい学校（校内環境、言語環境の整った美しい学校）
前年度までの本校の現状	成果	全国学力調査において、国や都の正答率を大きく上回る結果となるなど、習得型の学力を身につけることができた。授業改善に向けた研究授業を年間8回実施し、「主体的、対話的で深い学び」の視点による授業改善を、全校を挙げて日常的に実施した。	課題 基礎的な学力や落ち着いて学習に向かう姿勢を生かして、自ら課題を見つけ主体的に解決しようとする意識がやや希薄であり、それを実現させるための授業改善が課題である。体力テストの結果で、国や都の平均を下回るものがあった。運動遊びの日常化や、体育科の学習の改善が課題である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査の実施と分析による個々の学習状況の把握し、個別の学習カルテを作成し、学習のつまずきの解消に活用する。</li> <li>一人一台端末を活用した個別最適な学習・協働的な学習を進める。</li> <li>よむYOMUワークシートの活用</li> <li>教科担任制の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリル診断テストにおけるC及びD層を10%削減させる。</li> <li>主体的、協働的な学びにかかわる児童意識調査の数値を向上させる。</li> <li>4年生15回、5・6年生30回のワークシートに取り組み読解力を育む。</li> <li>教材研究、授業改善を進める。</li> </ul>	D	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カルテをもとに、補習内容を検討し、個々のつまずきの解消を行った。</li> <li>CD層発生率は+18%</li> </ul>	D	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習教室の充実も含め、改善を進めてほしい</li> <li>高学力を維持してほしい。</li> <li>漢字など基礎・基本の力が算数の問題把握力にもなっている。</li> <li>6年生のピブリオバトルなどレベルが高いと感じる。国語科の思考力を算数科にもつなげるのが課題と感じる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別最適な学習、協働的な学習に向けた指導観の転換及び学習過程の工夫が進んでいる。「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」に基づいた学習指導の改善を図っていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組内容が具体的であることや目標が数値化されているのがよい。</li> <li>生活の中で使われる言語が簡略化され、語彙力が低下している懸念がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力テスト等から明確になっているつまずきを学力向上アクションプランに位置づけ、焦点化した学習を促進させる。</li> </ul>	
				B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びにおける肯定的回答が87.6%、協働的な学びにおける肯定的回答が90.9%となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を活用した個別指導等、個々への丁寧な指導を継続してほしい。</li> <li>楽しいそうに学習している。主体的な学習が見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を活用し学習履歴を活用し個別最適な学習及び協働的な学習へ向けての指導、支援が行えている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習発表会の様子からは、子供の確かな成長の様子が見られた。</li> <li>自らの学びを次に生かそうとする児童の様子があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を活用し、個々の学習実態を把握し、個別の支援を更に充実させる。</li> </ul>	
				A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>よむYOMUワークシートによる朝学習を計画的に行っている。</li> <li>校内研究を中心に授業改善が進んでいる。10・11月に提案授業を5回行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>活字離れが進んでいる中、学校で新聞等で学ぶことは有意義なことと考える。</li> <li>体育科による校内研究の成果を全教科につなげていくことを期待する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育科における成果である「主体的な学び」を全教科につなげていくためには、教師の指導観の転換をさらに進めていくことが課題である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供にゆだねる学習形態を追究している様子が見られる。</li> <li>体育科に触れる機会を増やすことに賛成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組時間も踏まえ、意図的、計画的によむYOMUワークシートを行う。</li> <li>授業研究を柱に指導力の向上を図る。</li> </ul>	
	○読書科の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書における探究的な学習（調べ学習）を進める。</li> <li>読書科、総合的な学習の時間を基に図書資料を活用した探究的な学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書科ノートを活用した探究的な学習を行う。</li> <li>年間4回の学校公開の中で、読書科の授業公開を全学級で行う。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書科ノートの活用及び朝読書、読書科における調べ学習を計画的に行っている。</li> <li>10月26日または、2月15日の学校公開日に読書科の授業公開を全学級で行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書も含め読書を行う機会を計画的に設けていくことが大切である。</li> <li>読書を探究的な活動につなげていくことは、大変意義があると考えている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>「図書館を使った調べる学習コンクール」への参加や図書ボランティアによる「お話の森」、読書旬間における教職員からの本の紹介などを計画的に進めることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書に限らず、活字離れが懸念される。教育活動に図書を活用する学習があることは有意義と考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書科の授業公開を引き続き学校公開日に実施する。</li> </ul>	
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業前15分間を活用した全校運動遊び</li> <li>ストレッチタイムの設定</li> <li>学期に2回のなわ跳び週間の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間35回以上の機会を設定し、多様な形式で数多くの運動遊びを経験させる。</li> <li>毎日3時間目開始前に全校で一斉に行う。</li> <li>意識調査において、休み時間にすずんで外遊びをしているとの回答を80%以上にする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>始業前の全校運動遊びが習慣化でき、主体的に運動を行う児童が増え、体力テストにおいては、全学年の平均スコアが3.78%上昇した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動遊びが定着し、確実に成果が出ていることは、大変意義深い。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>船スポタイム（朝の運動遊び）では、子供たちの主体的な取り組みが進み、運動や遊びの楽しさを味わうことができています。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちが運動遊びを楽しんでいる様子が伺える。遊びの楽しさが体力向上につながっていると考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>船スポタイムを継続し、運動に取り組む態度の育成、体力向上を計画的に進める。</li> </ul>	
				A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレッチタイムが習慣化され、体力テストの長座体前屈では、全学年の平均スコアが5.1%上昇し、令和5年度の全国平均を上回った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続することで、確実に子供たちの柔軟性の向上につながっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレッチタイムにより運動の日常化が図れたとともに、休み時間と学習との折り返しが付くなどの効果も見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テストにおいて44%の向上は大変すばらしい。運動の日常化により健全育成にもつながっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレッチタイムをマンネリ化させずに、目的意識や意欲を喚起させながら継続させる。</li> </ul>	
				A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>なわ跳び週間を計画通りに行っている。</li> <li>意識調査を10月中に行い、11月22日に研究報告を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>外で遊ぶ機会が減少している中、なわ跳びはよい運動になると考える。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>10月の意識調査から、「学習課題の有無」「ICTの活用」「学習の振り返り」の質問において肯定的な回答が1～12%上昇し全て80%以上となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動する機会を計画的に取り入れることは、今後さらに求められていくと考える。体力向上、健康増進の取り組みを進めて欲しい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>中休みを活用し運動に親しむ機会を計画し、体力向上に向け意図的に進める。</li> </ul>
	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級と通常学級の交流学習・教員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語、算数の交流学習を行う。</li> <li>特別支援全体研修、特別支援授業交流研修を年間1人2回実施する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>6月に特別支援教員研修を実施、また、10月から1月にかけて特別支援授業交流学習を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育の充実のためには、教員研修や交流学習は必要なことであり、その成果を発信して行ってほしい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教員研修及び特別支援授業交流研修を計画的に実施できた。また、日常的に特別支援学級と通常学級の交流学習が行えることで相互理解とともに自己肯定感の向上も見られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生社会の実現には相互理解が欠かせない、通常学級と特別支援学級との交流や教職員の研修は、有意義であり継続して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業交流においては介助員を付けずに実施することで、児童の主体性を高める。</li> <li>研修及び交流を次年度も継続させる。</li> </ul>	

不登校・いじめ対応の充実	○ボランティアマインドの育成	・船堀小ガーデンでの活動	・全校児童による花壇の維持運営を保護者ボランティアと共に行い、地域と一体となり進める。	C	C	・児童主体の活動までには至っていない。見直しをもってボランティアマインドの育成を行う。地域との共同運営は準備が整い10月から実施する。	C	・植物を育てるには、時期を逃さず、計画的に進めることが大切である。見直しをもった運営を行っていく必要がある。 ・校外での優しい様子が見られて嬉しい。	B	・学校応援団（ボランティア）の協力もあり、船堀小ガーデンの整備が進み季節の植栽を育てることができている。児童の主体的な活動につながる支援を充実させる。	B	・ボランティアと児童との交流学習があるとよい。地域との連携を促進させながら、船堀小ガーデンの運営に協力していきたい。	・「人権の花」、「船堀小ガーデン」、「金魚の飼育」を児童主体で行っていく。
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	・異学年交流「なかよし班活動」	・音楽、図工、家庭、体育の学習において交流を行う。 ・各種行事において共同学習を行う。	A	A	・特別支援学級と通常学級との交流学習が定着している。 ・運動会等の行事においても共同学習が定着している。 ・副籍交流として毎月の学校だよりの交換を行っている。	A	・異学年交流をはじめ、特別支援学級と普通学級との交流など引き続き行ってほしい。	A	・日常的に特別支援学級と通常学級との交流学習が行えている。 ・副籍交流においては毎月の学校だよりの交流を行うことができている。	A	・なかよし班活動や特別支援学級との交流などを生かし、共生社会の実現に向けて計画的に進めて行って欲しい。	・異学年交流、縦割りの班活動を継続し、相互理解・相互協力の活動を行っていく。
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・自尊感情を大切に生活指導 ・道徳学習の充実	・児童が集団に対して貢献できる場を設定し、自己有用感を育てる。 ・全学級道徳授業公開を行う。	A	A	・委員会活動及びクラブ活動において児童の主体的な活動が確保できている。 ・10月26日（土）に道徳授業地区公開講座及び全学級道徳授業公開を行う。	A	・子供たちが子供たちなりに考え、実行していく経験は生きていくうえで大きな力になる。 ・保護者も交え共に学んでいく機会は大変貴重である。 ・道徳科においては、具体的な指導を望む。考える視点を示さなければ、考えられないと考える。	A	・生活指導の充実を図り、規範意識の向上、他者を思いやる心、物を大切にすることの指導を学校生活全体を通して行い、道徳的実践意欲を向上させる。	A	・不登校はだいぶ改善している。校内別室指導員の制度の活用を更に進め、学校の居場所づくりを充実させて欲しい。	・教師と児童との信頼関係を確立させ意図的、計画的な生活指導及び道徳教育を進めるなかで、非認知能力及び自己有用感の育成を図る。
	○Hyper-QUの活用	・QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・年に1回校内でQU研修会を実施	A	A	・QUの結果をもとに学年ごとに内容を共有し児童理解を行った。また、自己申告面談において全児童の実態報告を行った。	A	・いじめや不登校を未然に防止するためにも役立てて行ってほしい。	A	・QUテスト結果の活用及び年間3回のいじめアンケート及びいじめ対策委員会及び毎週の生活指導夕会での情報と対応の共有など計画的に行っている。	A	・学校全体でいじめや不登校を防止していくことが大切であり、引き続き児童の実態把握に努めてほしい。	・L-GATEによる児童の実態把握を日常的に行い、いじめ・不登校の未然防止に努める。
	○教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化 ・ひまわりルームの運用	・不登校児童とのSC、SSW連携率100% ・指導記録をもとに問題解決につなげる。	A	A	・不登校傾向にある児童に対しSC、SSWの連携が100%行えている。 ・校内別室指導支援員が9月から導入され、指導記録をもとにした支援が行えている。	A	・それぞれの専門性を生かし、不登校対策を行ってほしい。 ・どの子も学校が安心できる場になることは、大変望ましい。	A	・不登校傾向にある児童への校内別室指導指導員の配置が9月から開始され、5人中3人の登校状況が大幅に改善している。SC、SSWとの連携も100%行えている。	A	・SSWによる家庭への支援を推進させ、不登校改善につなげることを希望する。	・SSWとの連携を進め、互いの強みを生かした不登校の未然防止、不登校傾向のある児童及び家庭への支援を行う。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	○学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・毎日更新を行う	C	C	・平均して3日に1回の割合で、記事の更新ができています。	C	・目標達成に向けて努力を期待する。	B	・令和6年度の記事の掲載件数が総数で120を超え、2日に1回の割合での更新が出来ている。	B	・学校の教育活動を知ることができるものであり、目標達成に向けて努力してほしい。	・学校ホームページを年間200回以上更新する。
	○学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・アンケート結果を分析し1学期の評議委員会にて報告する。 ・2学期に実施する。	A	A	・1学期（6月15日）の評議委員会において、前年度意識調査の結果及び学校経営方針等の報告を行った。 ・今年度は2学期に調査を行う。	A	・学校関係者評価を踏まえ、次年度の学校経営方針に生かしていただいていることが、よく分かった。	A	・学校関係者評価を踏まえ、次年度の学校経営に生かしていく。	A	・評議委員会での議論が反映されている。今後も教育活動の充実に協力していきたい。	・引き続き児童、保護者、地域、教職員からのアンケートを踏まえ、教育活動を充実させていく。
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間45時間以下	B	B	・月残業時間45時間以下は4月:73%、5月:70%、6月:75%、7月:88%となった。	B	・繁忙期棟はあると思うが、働き方改革を引き続き進めていくことが大切である。	A	・前年度と比較し、時間外労働時間の削減がすすんでいる。引き続き働き方改革をすすめていく。	A	・教員の魅力を向上させることが大切であり、教職員の働き方は更に改善する必要がある。	・業務内容を見直し、全教職員の時間外勤務時間を45時間以下にする。
	○イングリッシュキャラバンの実施	・ALT以外のネイティブスピーカーと英語を通してコミュニケーションを取る。	・全学級において3学期に実施する。	A	A	・計画通りイングリッシュキャラバンを3学期に行う。	A	・実際の英語に触れる機会は、貴重である。よい学びにつなげてほしい。	A	・日頃の学習成果を「イングリッシュキャラバン」において発揮することができ、子供たちの学習の充実が図られた。	A	・学習発表会では、英語で学習の成果を表現する主体的な姿が光っていた。	・外国語活動、外国語において、イングリッシュキャラバンを見据えた学習を継続させる。